

# 平成26年度 事業報告書

# 目次

<b>I 事業総括</b>	1
<b>II 事業報告</b>	
1 調査啓発事業	2
2 不燃用プリペイド袋リサイクル事業	4
3 資源化事業	6
(1) 剪定枝等処理事業	6
(2) びん・缶・ペットボトル選別事業	8
(3) 施設管理受託事業	10
① ごみ資源化工場施設管理事業	10
② 中沼プラスチック選別センター施設管理事業	14
③ 中沼雑がみ選別センター施設管理事業	16
④ 札幌市リサイクル団地管理事業	18
(4) 大型ごみ収集センター管理運営事業	20
4 事業系ごみ収集運搬事業	22

# I 事業総括

平成 26 年度は、各事業とも概ね当初計画通りの事業運営を実施した。

収支状況については、剪定枝等処理事業で剪定枝受入量が当初計画を大幅に上回ったほか、事業系ごみ収集運搬事業において、収集ごみの減少が計画を下回ったことなどにより、当初予算より収支が改善し、ほぼ昨年度並みの正味財産増減額となった。

課題となってきた設備等の老朽化への対応については、資源選別センターでの設備更新、事業系ごみ収集運搬事業における「業務管理システム」の更新に向けた設計などを実施した。また、平成 26 年度の重点項目のひとつでもあった「事業系ごみ収集運搬事業の効率化」については、排出量の少ない事業所に対し収集回数減の依頼を行うなど効率化に向けた取組を進めている。

## 重点項目の実施結果

### (1) 顧客満足度の向上

「一人ひとりが持つ責任者意識」を収集運搬作業従事者の年間スローガンとし、顧客満足度の向上を目指した収集運搬業務を実施した。

### (2) 事業系ごみ収集運搬事業の効率化

排出量の少ない事業所へ収集回数減などの依頼を行い、定期収集に行ってもごみが出ないいわゆる「空振り」の解消を進めた。

### (3) 新たなリサイクルへの研究開発

札幌市、近畿大学とのバイオコークスの事業化に向けた共同研究や、公益財団法人札幌市公園緑化協会との剪定枝チップの堆肥化実験などの研究を、前年度に引き続き実施した。

### (4) 事務・事業の見直し及び経費の節減

中沼資源選別センターにおいてプラントの交換部品の再生利用を図るなど、業務見直しによる経費の節減を行った。

### (5) 顧客や市民への積極的な情報発信

「環境広場さっぽろ 2014」等のイベント出展を通し、広く市民や事業者に対し、ごみの減量やリサイクルについての啓発を行った。また、より効果的な情報の発信を行うため、開設より 11 年経過していたホームページのリニューアルを実施した。

### (6) 環境マネジメントシステムの的確な運用

平成 27 年 3 月、北海道環境マネジメントスタンダード（HE S）の定期審査を受審し、環境マネジメントシステムが的確に運用されていることが評価された。

### (7) 一般財団法人としての円滑で適正な業務執行

新たな会計基準に対応した経理処理を適切に行うとともに、平成 25 年度の公益目的支出計画実施報告書の提出を行い、北海道の審査完了を得た。

## Ⅱ 事業報告

### 1 調査啓発事業（決算額 52,960,162 円）

#### (1) 調査研究事業

##### ① ごみ重量計量システムに関する調査研究

平成 23 年度から重量計量システムを搭載した収集車両を導入して、計量精度の検証及び排出者毎のごみ重量等データの収集・蓄積と収集データを活用した排出実態の分析を行っている。平成 26 年度は、収集コースを変更してデータ収集等を行った。

##### ② バイオコークスに関する調査研究

札幌市内から排出される「枝・葉・草」及び「剪定枝」等の植物系バイオマスの有効利用を図るため、札幌市、近畿大学とバイオコークスの事業化に向けた共同研究を平成 25 年度から実施している。平成 26 年度は、旧篠路清掃工場ステージにテストプラントを設置して、原料の前処理とバイオコークス製造等に関する実証試験等の調査研究を実施し、「枝・葉・草」や「剪定枝」等について、テストプラントで原料の前処理とバイオコークスの製造ができることを確認した。

##### ③ 剪定枝チップの堆肥化実験

剪定枝チップの有効利用と新たな販路の開拓を進めるため、平成 24 年度から剪定枝チップの堆肥化実験を公益財団法人札幌市公園緑化協会と共同で実施している。

平成 26 年度は、平成 25 年 10 月から約 1 年間かけて熟成させた堆肥について、成分分析と発芽試験及びコマツナによる生育試験を実施し、剪定枝チップが堆肥として十分活用できることを確認した。

また、前年に引き続き剪定枝チップを百合が原公園に搬入して、発酵状態の確認や水分測定など熟成状況の確認を行った。

#### (2) 普及啓発活動

ごみ減量及びリサイクル、公社の事業内容についてホームページや各種イベントにより普及・啓発を行った。

##### ① 公社事業概要等の発行

i) 公社の事業方針、事業内容及び実績を取りまとめた「事業概要」250 部を平成 26 年 10 月に発行し関係機関等に配布した。

ii) 各リサイクル施設で実施する資源物等の組成調査、固形燃料の成分分析等及び調査研究結果を取りまとめた「平成 25 年度データ集」150 部を平成 27 年 3 月に発行した。

iii) 公社事業の情報発信を質・量ともに充実させるため、ホームページをリニューアルし、平成 27 年 2 月から公開した。

② 各種イベントへの参加

i) 環境ビジネスの発展や市民に対する環境意識の向上を目的としたイベント「環境広場さっぽろ 2014」に出展し、公社事業の紹介を行った。

ii) 「ミニさっぽろ 2014」「かんきょうみらいカップ 2014」「第 66 回さっぽろ雪まつり」等のイベントに協賛した。

③ 見学者の施設案内

ごみの適正処理やリサイクルの普及活動として各施設への見学者を受け入れている。

平成 26 年度は、市内の小学 4 年生で「ごみ・リサイクル」を学習するカリキュラムの見学者を含めて 7,084 名を受け入れた。

## 2 不燃用プリペイド袋リサイクル事業 (決算額 54,726,666 円)

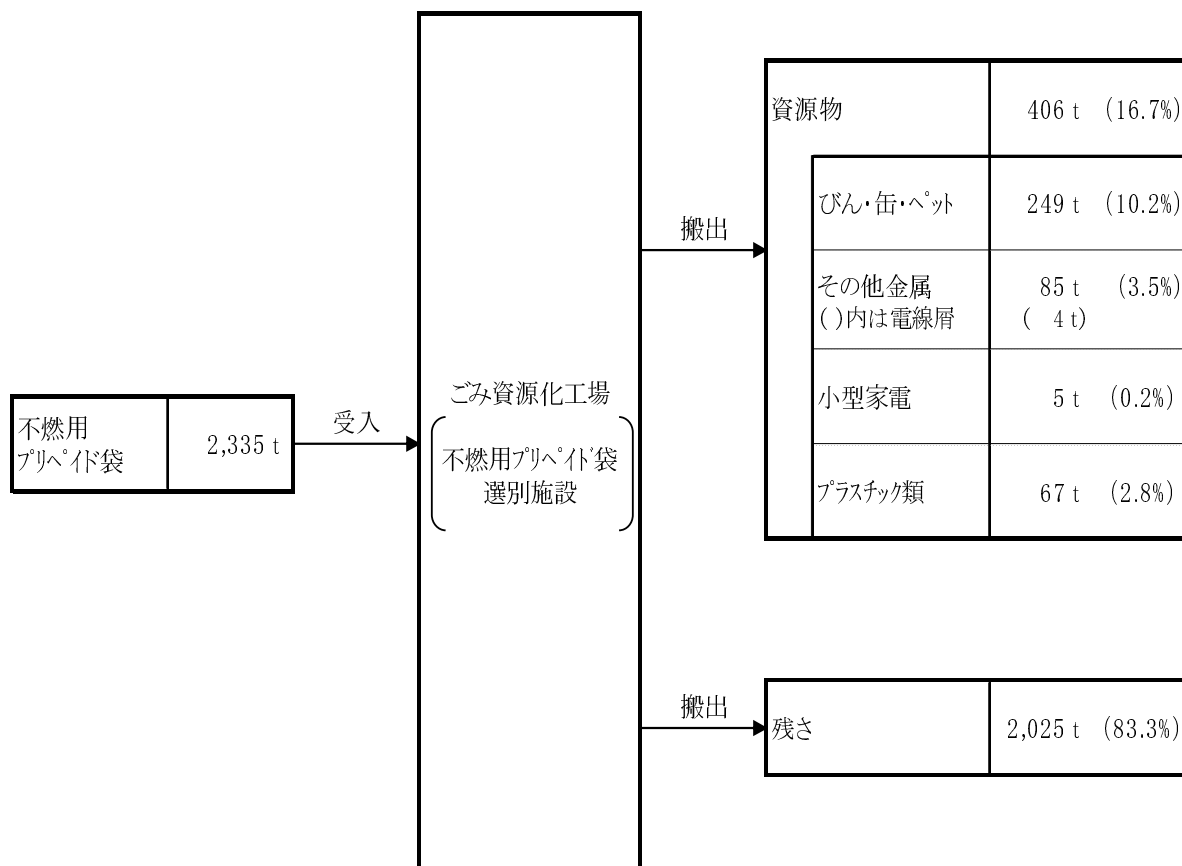
平成 21 年 4 月より、札幌市内の少量排出事業所から排出される不燃用プリペイド袋に混入しているびん・缶・ペットボトルなどを選別し、埋立量の低減及びリサイクルを推進している。

### ◇ 処理実績

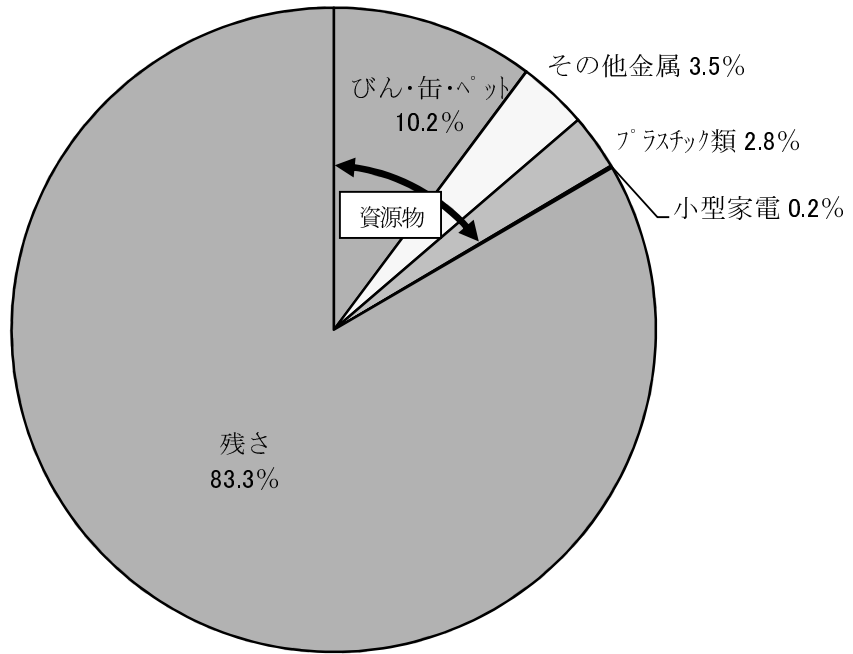
平成 26 年度の不燃用プリペイド袋受入量は、計画量 2,400t に対し 2,335 t で、前年度 2,441 t に比べ 4.3%の減少となった。搬出量は 2,431 t で、資源物 406 t が選別された。

不燃用プリペイド袋に混入しているびん・缶・ペットボトルは選別後、リサイクル業者に引き渡し、一斗缶等のその他金属及び小型家電は業者へ売却、ビニール類等の軟質系プラスチック類は固形燃料の原料として再資源化を図った。

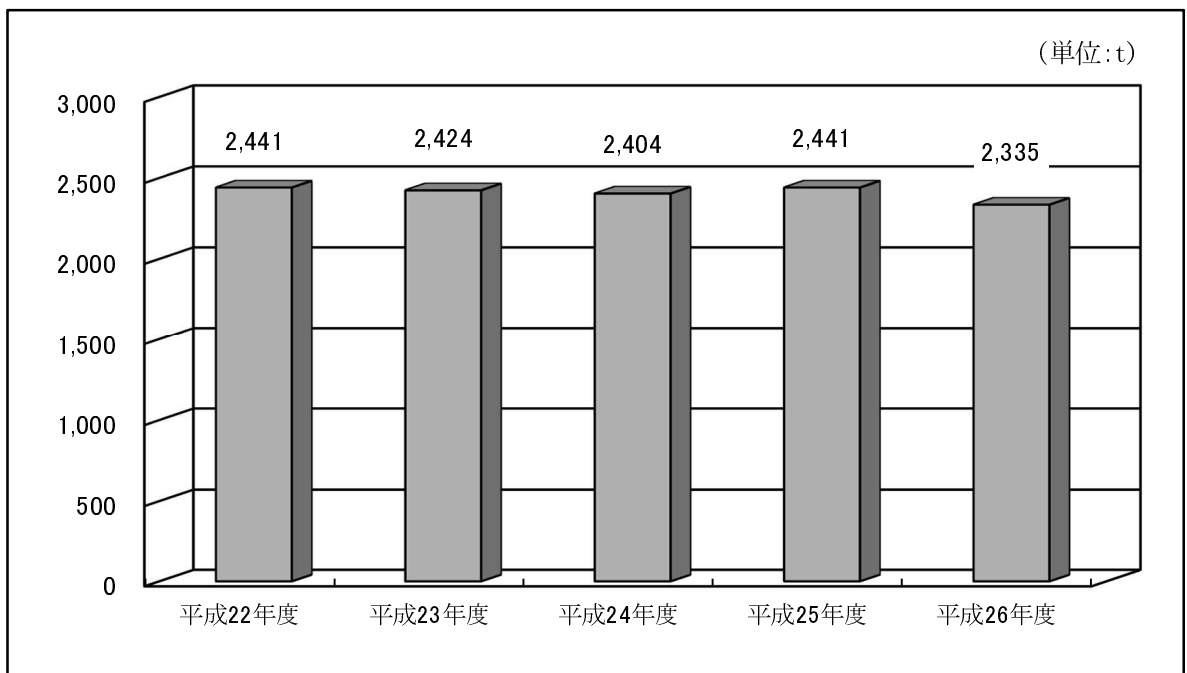
【図 2-1 平成 26 年度 不燃用プリペイド袋処理実績フロー図】



《グラフ 2-1 平成 26 年度 資源物・残さ搬出割合》



《グラフ 2-2 不燃用プリペイド袋受入量 (年度別)》



### 3 資源化事業 (決算額 1,162,764,013 円)

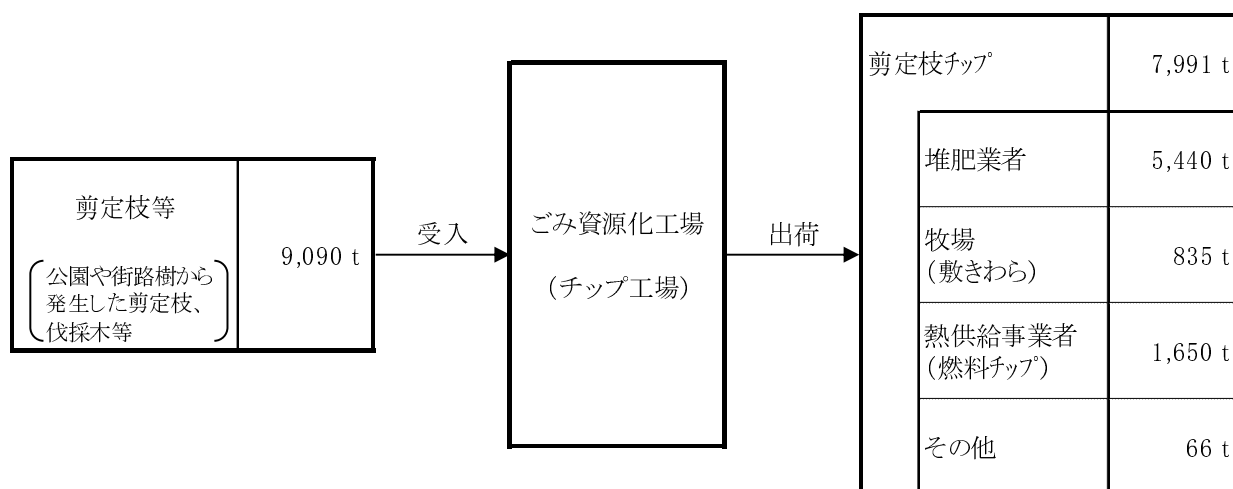
#### (1) 剪定枝等処理事業 (決算額 56,583,394 円)

平成 20 年 10 月から実施している当社の自主事業で、公園や街路樹等から発生した剪定枝、伐採木等を、チップ工場破碎施設で約 45mm の大きさのチップに加工して、堆肥や畜舎の敷きわらなどとしてリサイクル業者及び酪農家に販売している。

平成 26 年度の剪定枝等受入量は、計画量 4,900t に対し 9,090 t で、前年度 7,583 t に比べ 19.9% の増加となった。

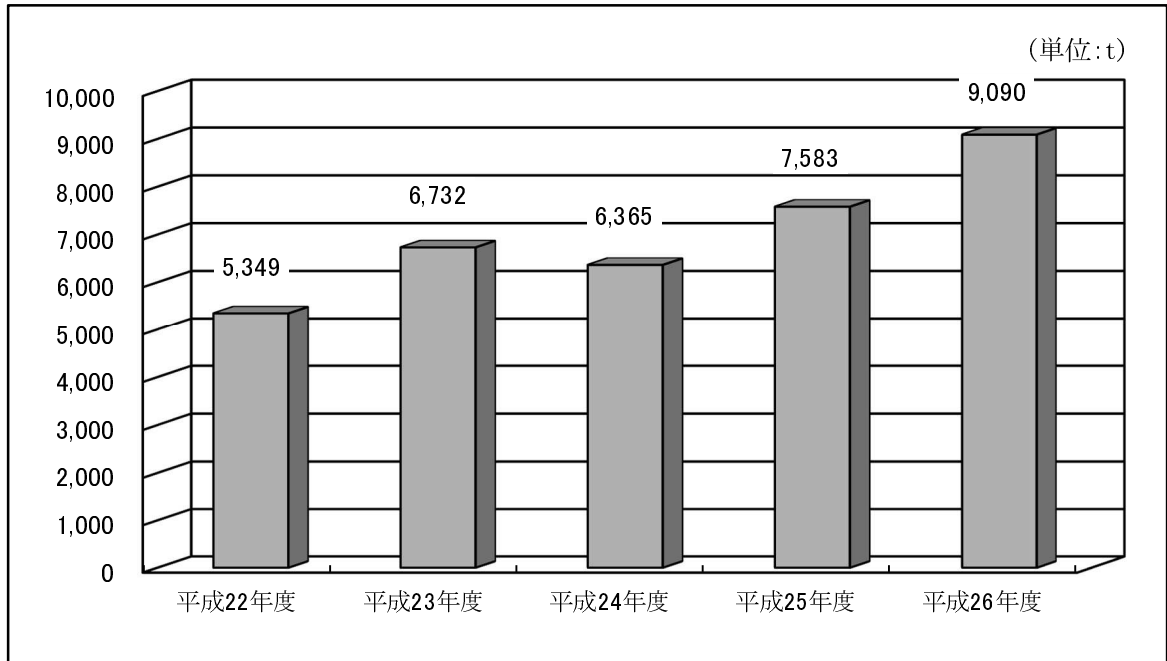
剪定枝等チップの出荷量は、計画量 4,700t に対し 7,991 t で、前年度 6,137 t に比べ 30.2% の増加となった。

【図 3-1 平成 26 年度 剪定枝等処理実績フロー図】

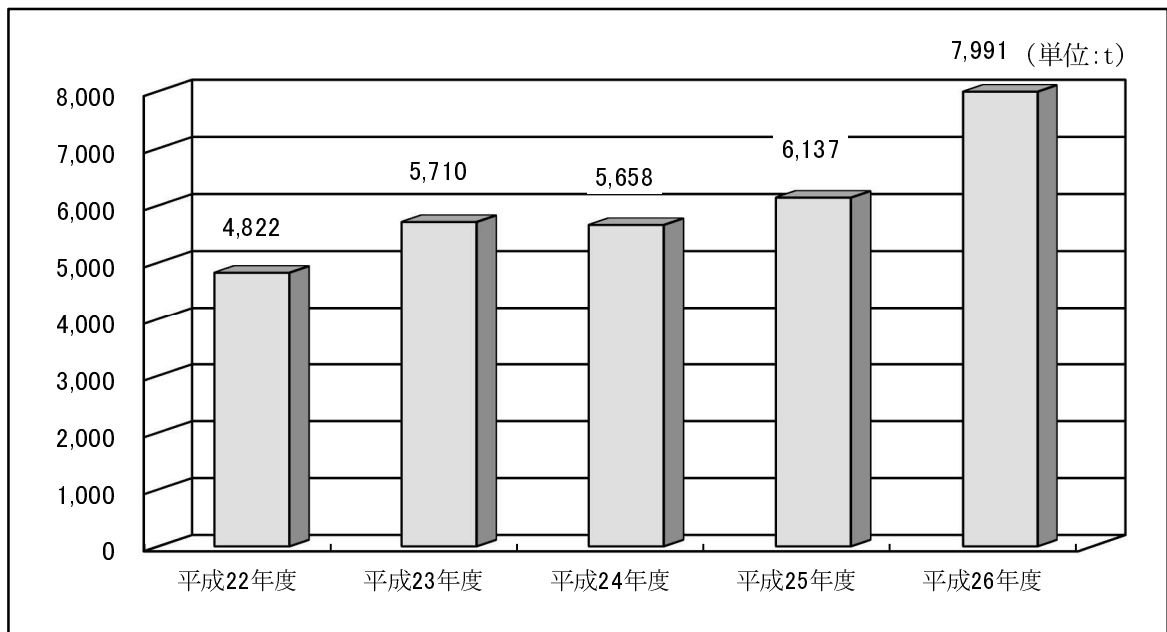




《グラフ 3-1 年度別剪定枝等受入量》



《グラフ 3-2 年度別チップ出荷量》



## (2) びん・缶・ペットボトル選別事業 (決算額 947,324,684 円)

平成26年度の資源物の全体受入量は、計画量37,200tに対し36,085t(家庭系34,344t、事業系1,741t)であり、選別搬出された資源物は計画量26,449tに対し、びん類12,591t(白びん5,002t、茶びん4,160t、その他びん3,429t)、缶類6,485t(アルミ缶3,485t、スチール缶3,000t)、ペットボトル7,073tの合計26,149tであった。

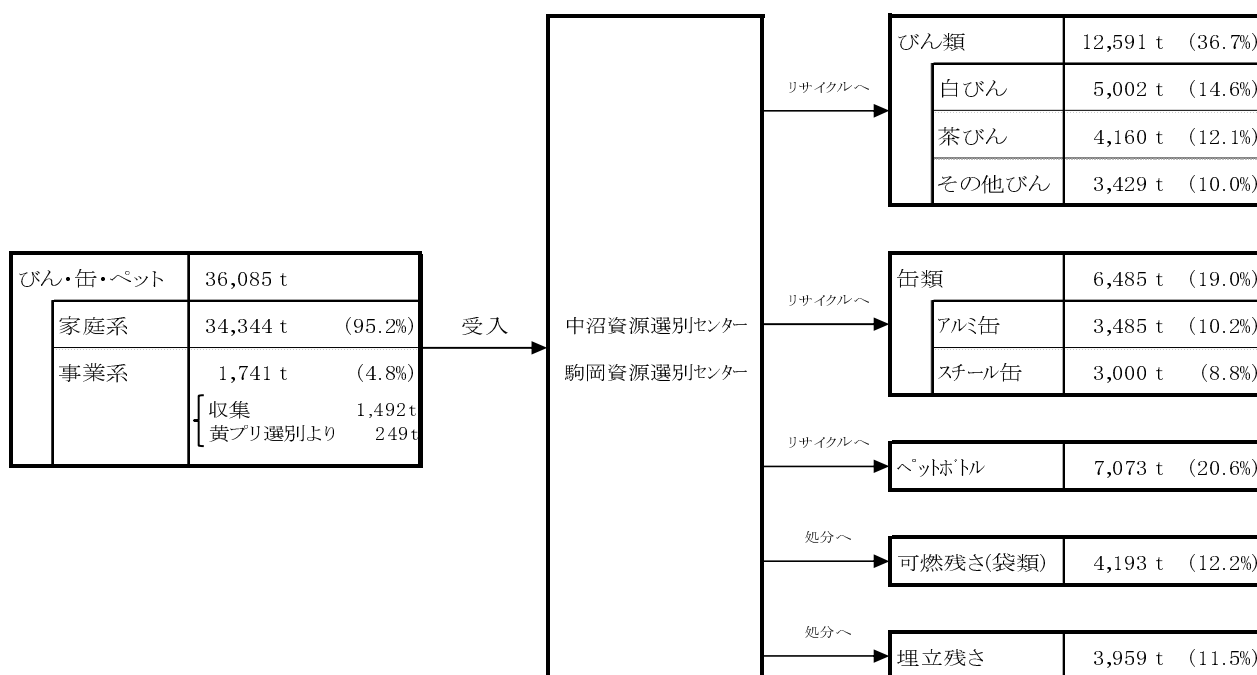
また、平成26年度は4,351人の見学者を迎え、施設の見学及びリサイクルの情報提供を通してびん・缶・ペットボトルリサイクルの啓発を行った。

選別された資源物は、次のようにリサイクルを図った。

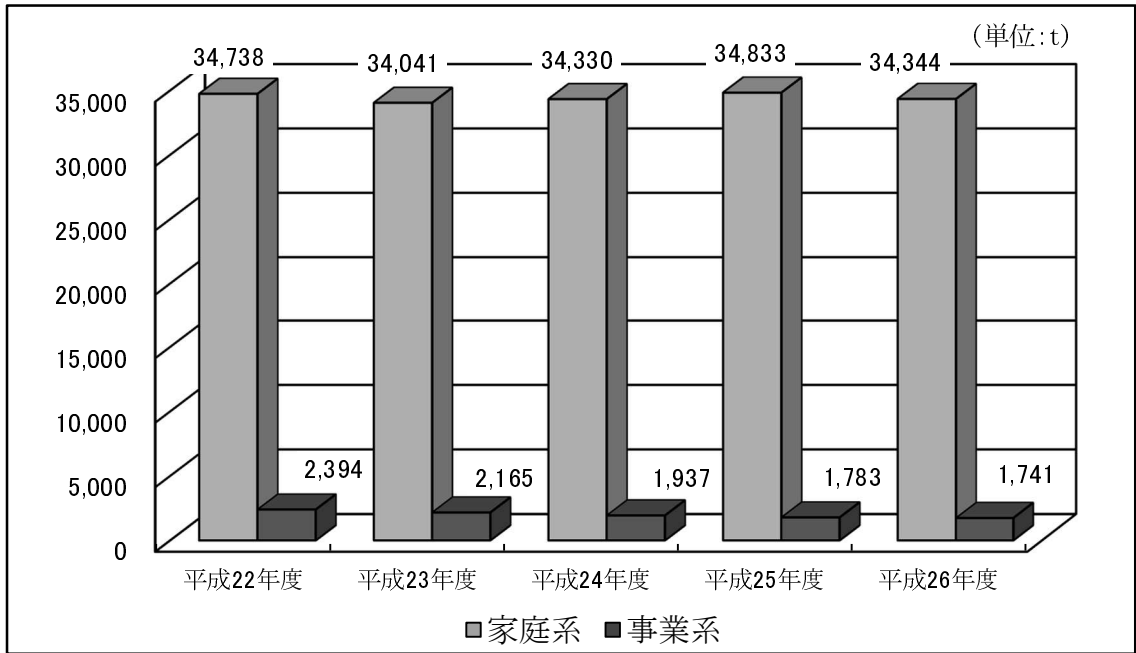
- ① びん類については、白・茶・その他びんに分け、家庭系(市)のものは指定法人ルートで、事業系(公社)のものは直接リサイクル事業者に引き渡し、それぞれ再生利用を図った。
- ② 缶類については、家庭系(市)及び事業系(公社)ともに、リサイクル事業者に引き渡し再生利用を図った。
- ③ ペットボトルについては、家庭系(市)のものは指定法人ルートで、事業系(公社)のものは直接リサイクル事業者に引き渡し再生利用を図った。

なお、駒岡資源選別センターの手選別業務については、知的障がい者に雇用の場を提供するために福祉団体に業務を委託している。

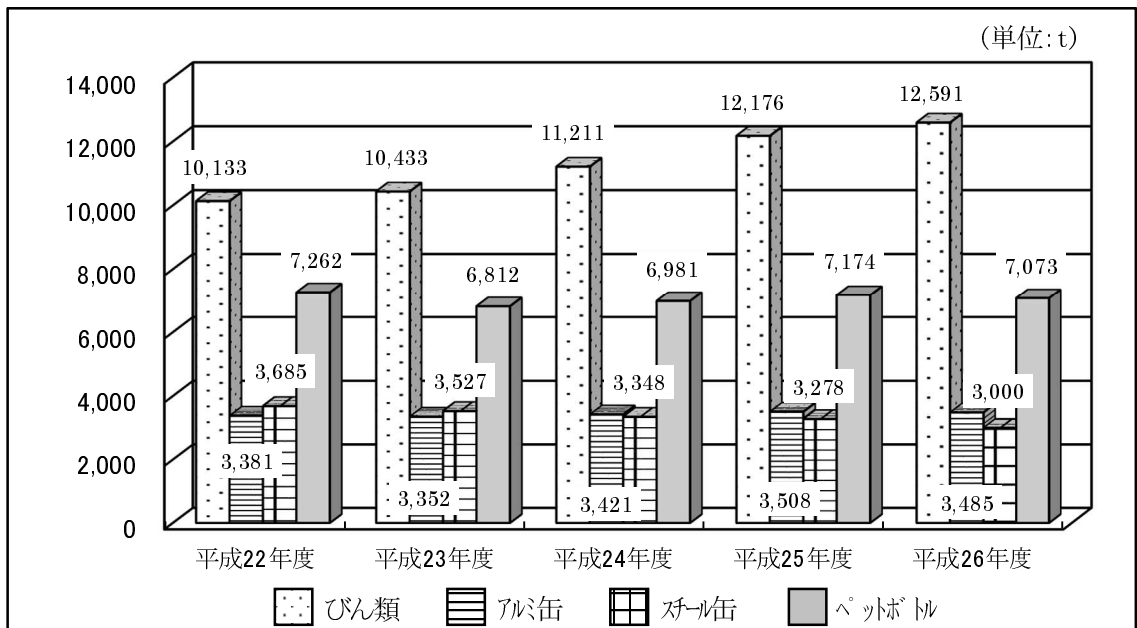
【図3-2 平成26年度 びん・缶・ペットボトル選別センター選別実績フロー図】



《グラフ 3-3 びん・缶・ペット受入量（年度別）》



《グラフ 3-4 資源物搬出量（年度別）》



(3) 施設管理受託事業 (決算額 139,853,063 円)

平成 26 年度は、札幌市の 4 施設の施設管理（総括管理）業務を受託し、同市のごみ処理計画及び運転・運搬計画等に基づき、次の事業を実施した。

① ごみ資源化工場ほか施設管理事業 (決算額 67,055,917 円)

ごみ資源化工場は、札幌市の処理計画に基づき、主に事業系の木くず、紙くず、廃プラスチックを選別破碎後、圧縮成形して固形燃料（RDF）を生産している。

当社は、ごみ資源化工場の施設運営に係る監督等の総括管理業務及び搬入ごみの計量業務を含む施設の運営全般の管理業務を札幌市からの受託事業として実施した。

また、平成 25 年度から、家庭系の大型ごみや事業系の建設廃材等を受け入れし、破碎・選別を行っている篠路破碎工場及び破碎工場付帯施設の運営全般の管理業務を札幌市からの受託業務として実施している。

◇ ごみ資源化工場処理実績

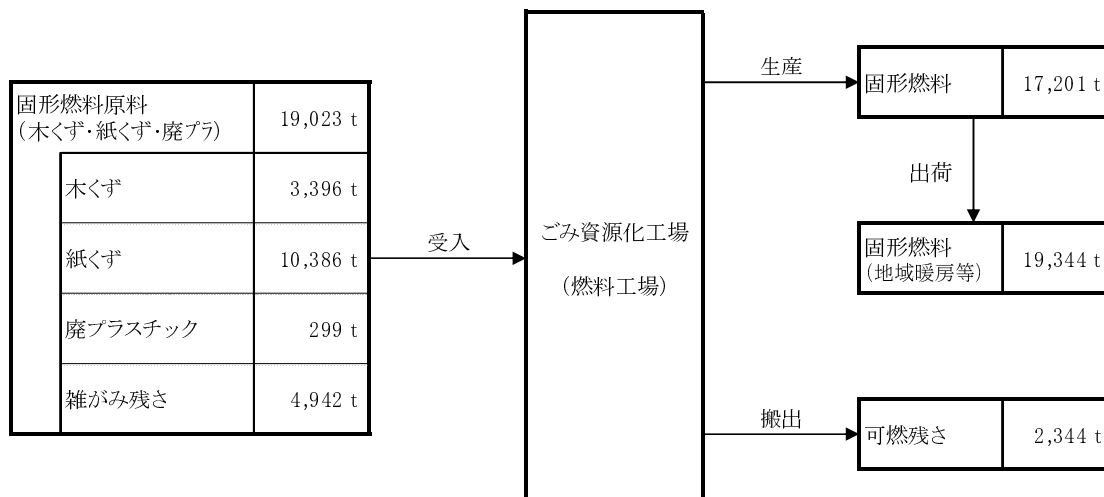
平成 26 年度のごみ受入量は、計画量 19,000t に対し 19,023 t で、前年度 20,773 t に比べ 8.4%の減少となった。受入量の内訳は、木くずが 3,396 t、紙くずが 10,386 t、廃プラスチックが 299 t、雑がみ残さが 4,942 t であった。

固形燃料の出荷量は、計画量 17,300t に対し 19,344 t で、前年度 17,932 t に比べ 7.9%の増加となった。また、生産した固形燃料は、北海道地域暖房㈱と王子製紙㈱苫小牧工場に出荷した。

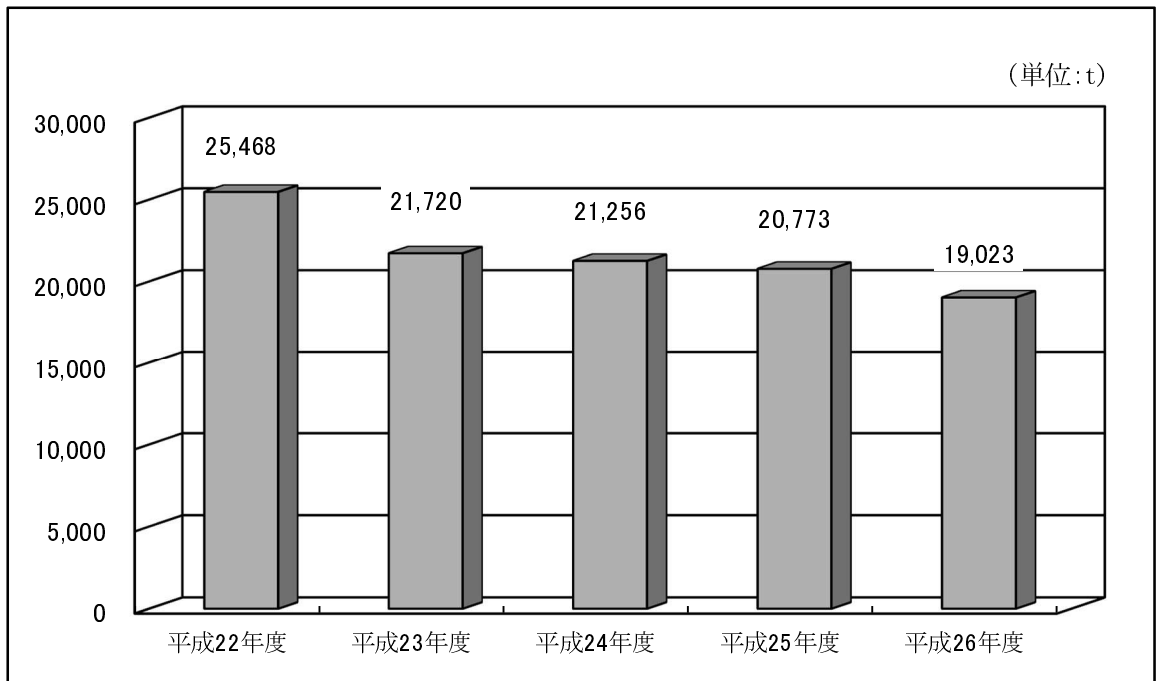
(受入量及び出荷量)

・ ごみ受入	19,023 t	17,054 台	<span style="font-size: 2em;">(</span> 一般廃棄物： 13,882 台 産業廃棄物： 3,172 台
・ 固形燃料出荷	19,344 t	2,206 台	
・ 残さ搬出	2,344 t	486 台	

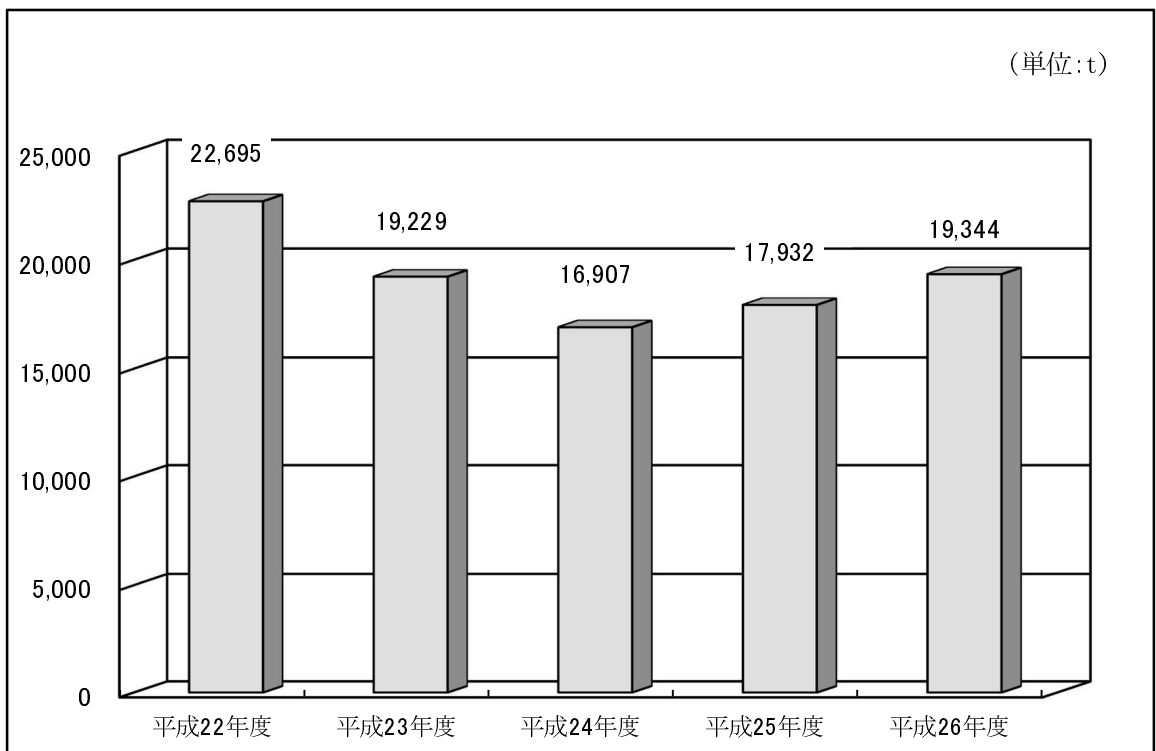
【図 3-3 平成 26 年度 ごみ資源化工場処理実績フロー図】



《グラフ 3-5 ごみ資源化工場受入量（年度別）》



《グラフ 3-6 固形燃料出荷量（年度別）》



◇ 篠路破碎工場 処理実績

平成 26 年度の篠路破碎工場ごみ受入量は、発寒破碎工場の火災復旧整備に伴う受入停止の影響等を受け、計画量 22,000t に対し 18,852 t で、前年度実績 14,852 t に比べ 26.9% の増加となった。受入量の内訳は、大型ごみが 6,288 t、燃やせないごみが 1,490 t、地域清掃ごみが 75 t、許可業者が 1,638t、自己搬入ごみが 8,926 t、各施設残さが 435t であった。

搬出量は 22,076t で内訳は、金属(鉄)が 1,530t、可燃物が 20,546t であった。

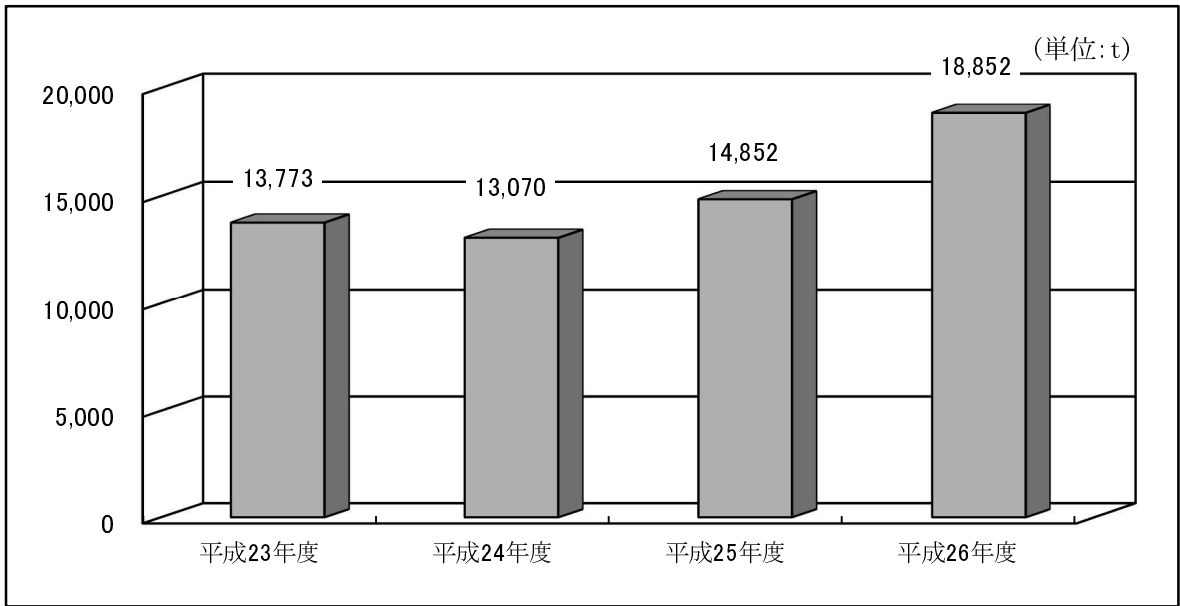
(受入量及び出荷量)

・ごみ受入	18,852 t	40,824 台
・金属(鉄)搬出	1,530 t	169 台
・可燃物搬出	20,546 t	5,578 台

【図 3-4 平成 26 年度 篠路破碎工場処理実績フロー図】

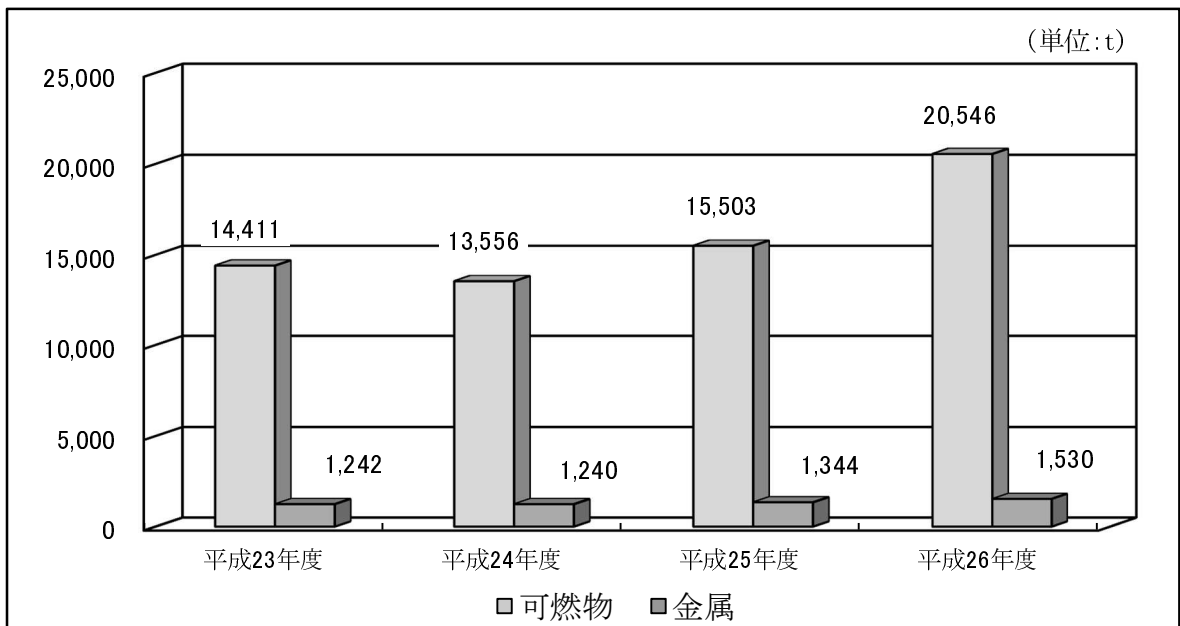


《グラフ 3-7 篠路破碎工場受入量（年度別）》



※ 平成 24 年度までは札幌市による運営管理

《グラフ 3-8 篠路破碎工場搬出量（年度別）》



※ 平成 24 年度までは札幌市による運営管理

② 中沼プラスチック選別センター施設管理事業 (決算額 35,309,267円)

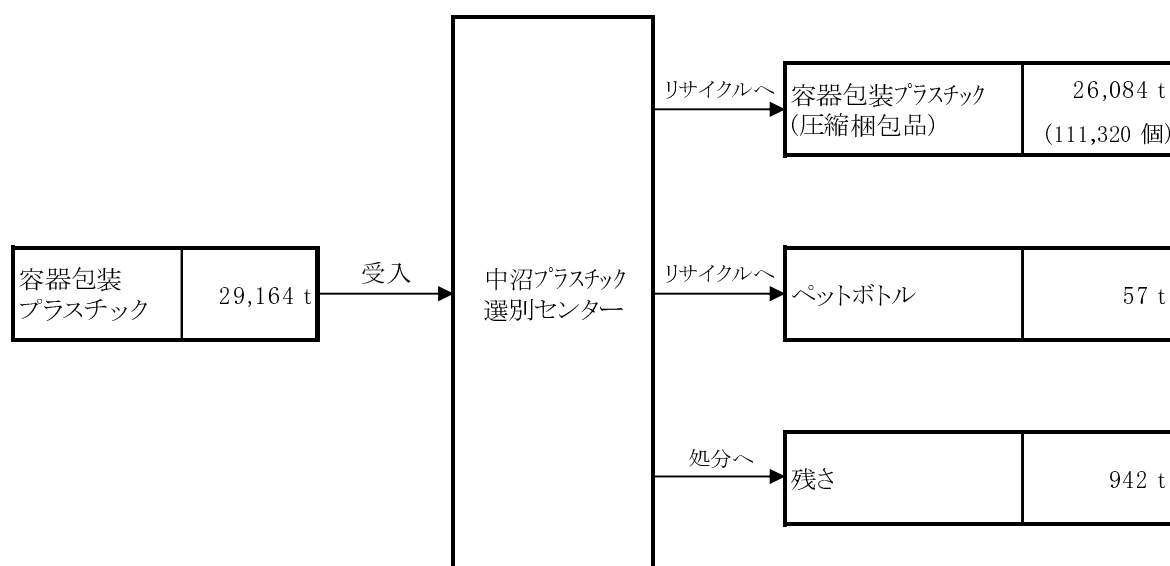
平成20年10月より、札幌市から「中沼プラスチック選別センター施設管理業務」を受託している。

当該業務は、札幌市から別途発注された施設の運転や残さ運搬などに対する監督、選別・圧縮された容器包装プラスチックの品質管理、再商品化事業者等との調整及び引渡し業務が主体となっている。

平成26年度の容器包装プラスチック受入量は、計画量29,900tに対し29,164tで、前年度29,663tに比べ1.7%の減少となった。また、選別後に圧縮梱包されて再商品化事業者等に引き渡された分別基準適合物の量は、計画量25,900tに対し26,084tで前年度26,059tに比べ0.1%の増加となった。

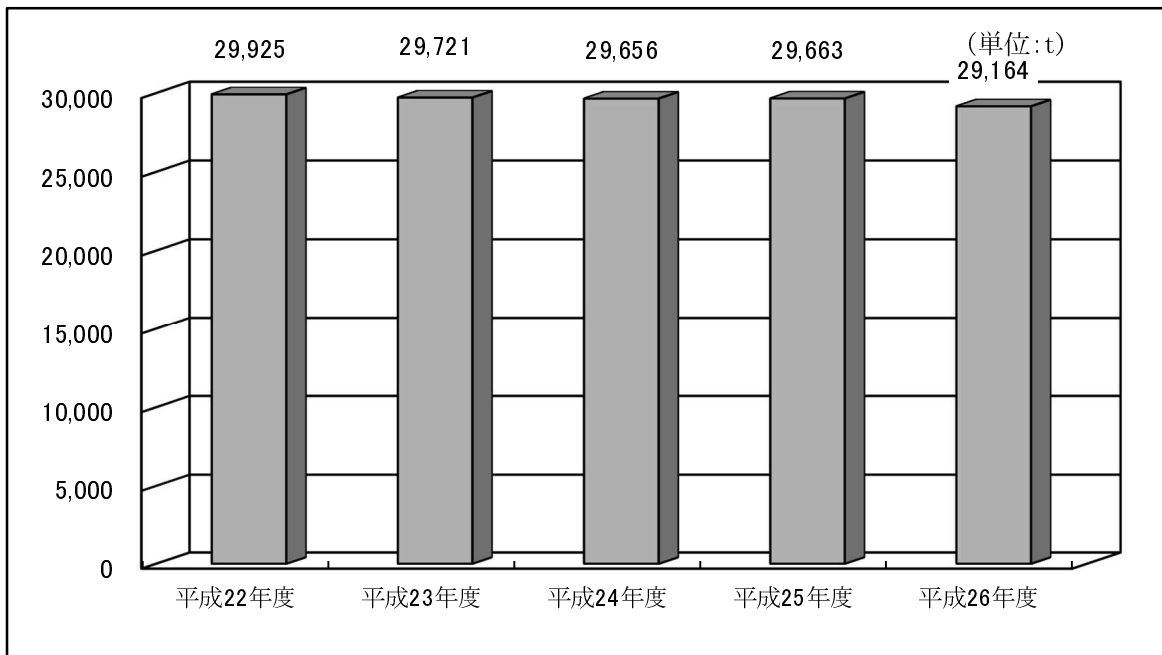
また、平成26年度は2,664人(60件)の見学者を迎え、施設の見学及びリサイクルの情報提供を通してプラスチックリサイクルの啓発を行った。

【図3-5 平成26年度 中沼プラスチック選別センター処理実績フロー図】

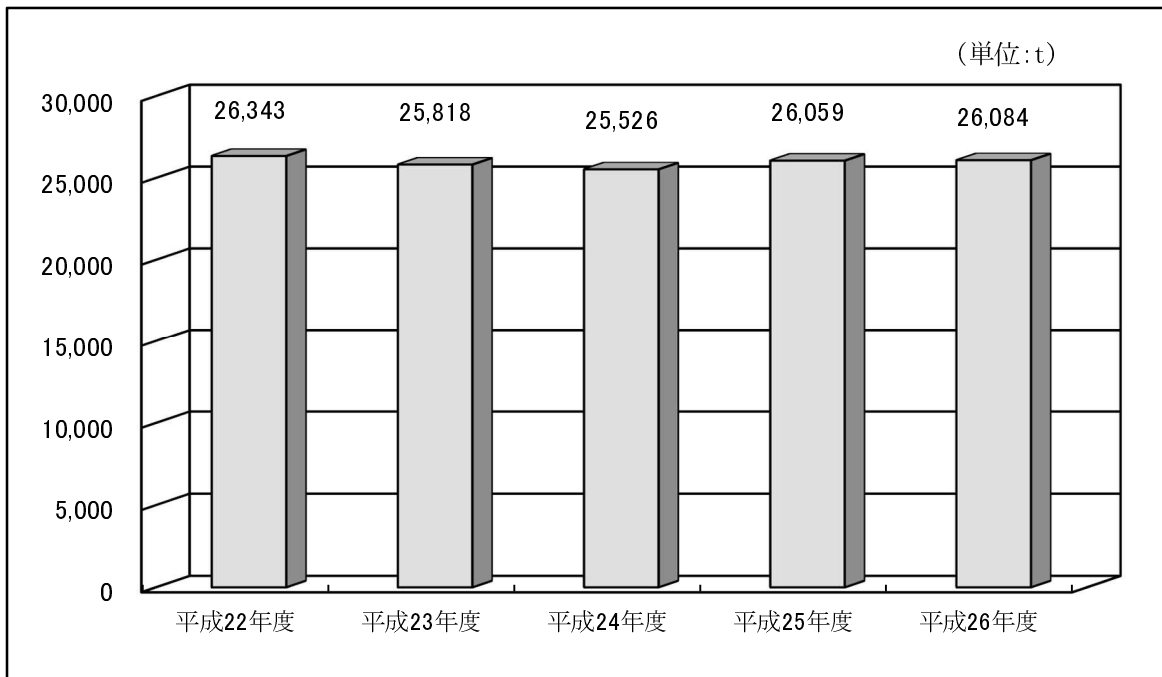




《グラフ 3-9 容器包装プラスチック受入量（年度別）》



《グラフ 3-10 容器包装プラスチック（圧縮梱包品）搬出量（年度別）》



③ 中沼雑がみ選別センター施設管理事業 (決算額 16,037,596 円)

平成 21 年 7 月より、札幌市から「中沼雑がみ選別センター施設管理業務」を受託している。

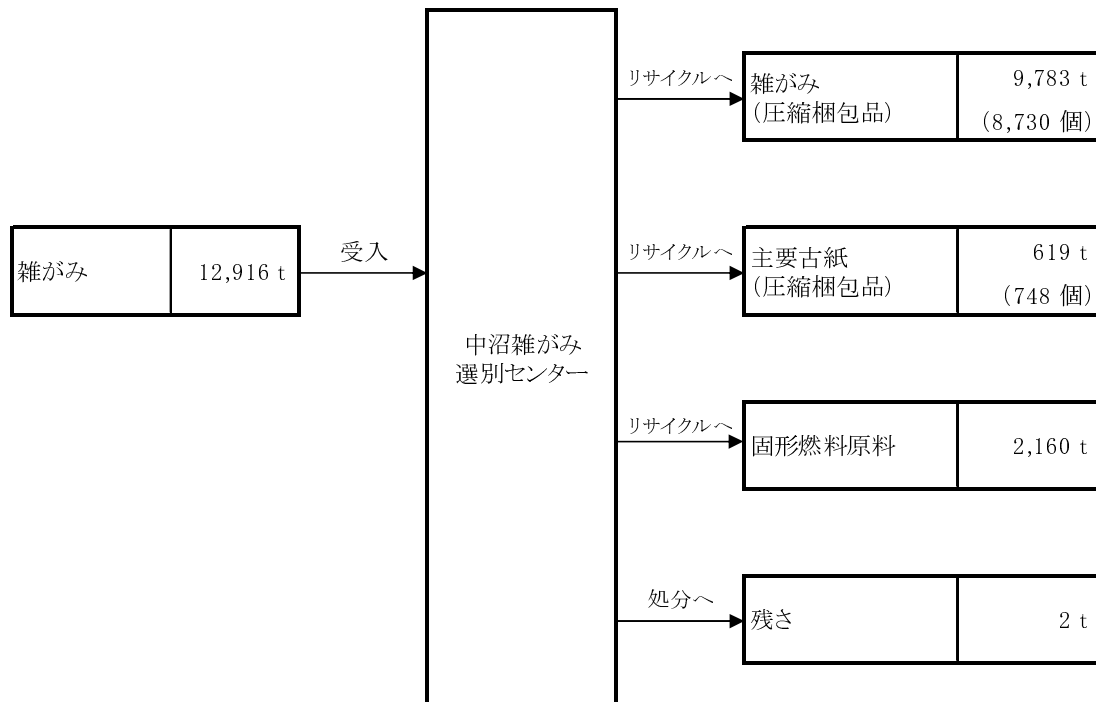
当該業務は、札幌市から別途発注された施設の運転などに対する監督業務、分別基準に適合するよう圧縮・梱包された雑がみと主要古紙の品質管理及びリサイクル事業者等との調整及び引き渡し業務が主体となっている。

なお、不適物を取り除く「手選別業務」については、知的障がい者の雇用を促進するために札幌市が福祉団体に業務を委託している。

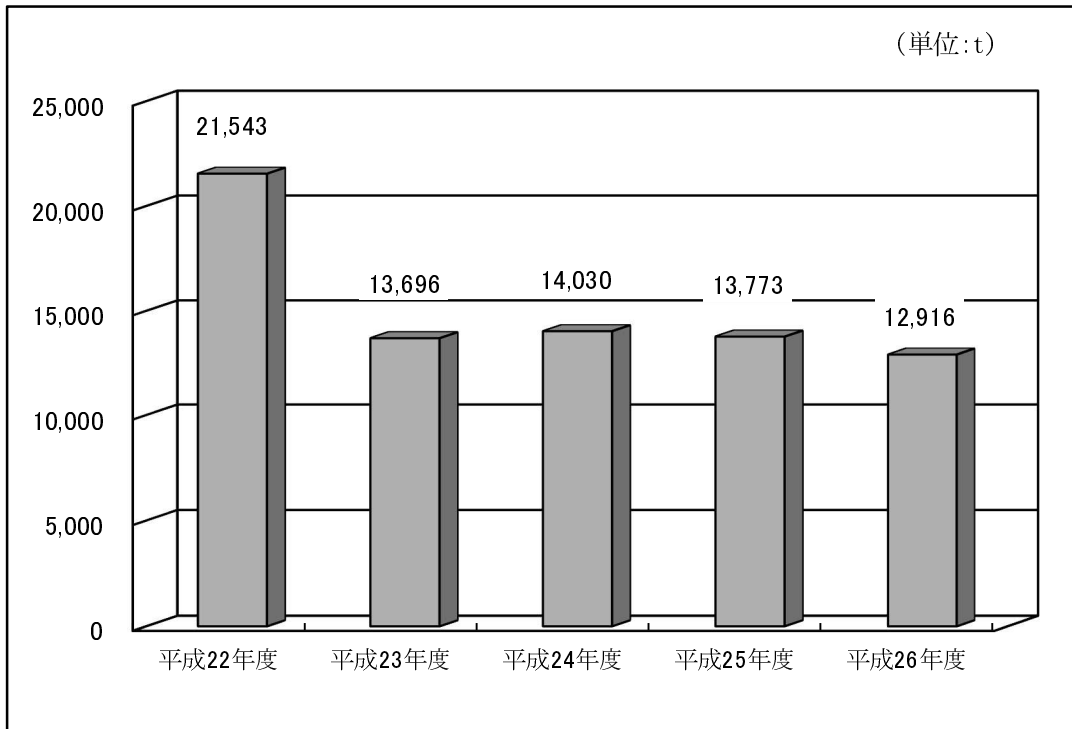
平成 26 年度の雑がみ受入量は、計画量 14,700 t に対し 12,916 t で、前年度 13,773 t に比べ 6.2% の減少となった。

また、選別後に圧縮梱包されてリサイクル業者に引き渡された雑がみは、計画量 10,500 t に対し 9,783 t で、前年度 10,158 t に比べ 3.7% の減少、また主要古紙は、計画量 800 t に対し 619 t で、前年度 731 t に比べ 15.3% の減少となった。

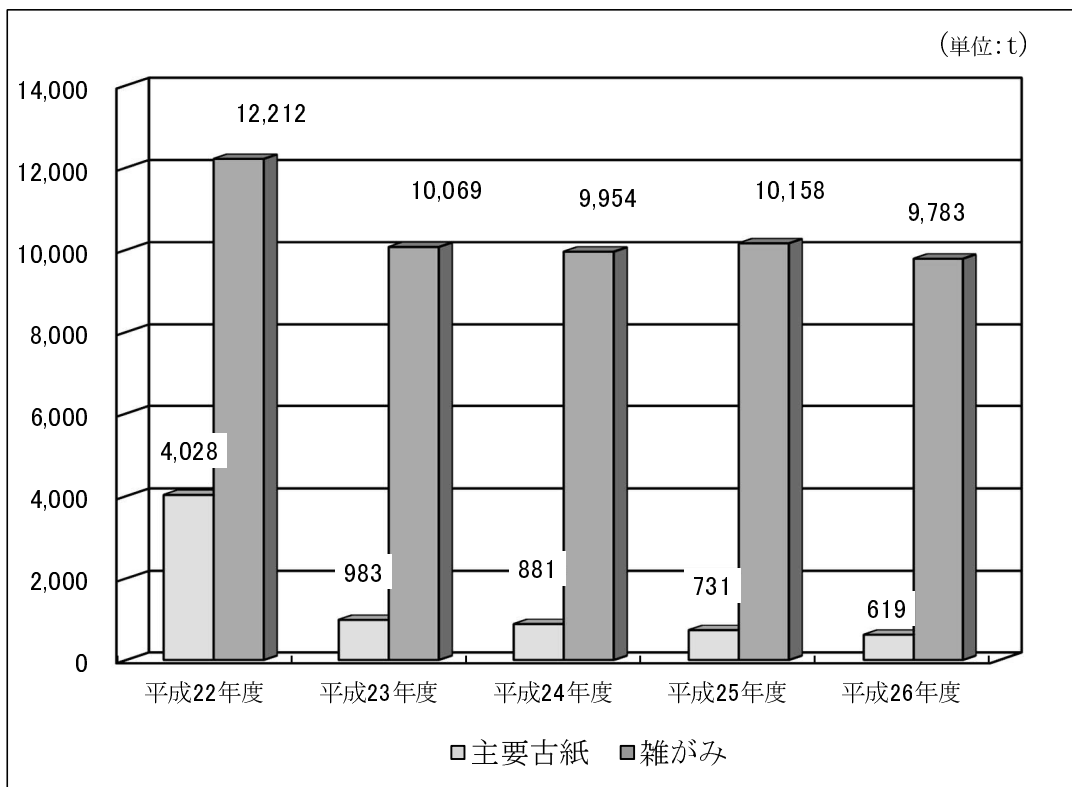
【図 3-6 平成 26 年度 中沼雑がみ選別センター処理実績フロー図】



《グラフ 3-11 雑がみ受入量（年度別）》



《グラフ 3-12 雑がみ等搬出量（年度別）》



④ 札幌市リサイクル団地管理事業 (決算額 21,450,283 円)

平成20年10月より、札幌市から「札幌市リサイクル団地管理業務」を受託している。

札幌市リサイクル団地は、廃棄物の減量・リサイクルを総合的に推進するモデル的な廃棄物の処理施設群で、団地の基盤整備については、札幌市が平成6年から平成8年にかけて行い、処理施設の建設・運営は、民間処理業者、第三セクター及び札幌市の3事業者がそれぞれ行っている。

現在、約23haの団地内に、民間処理業者6社、当公社、及び札幌市の9施設が稼働している。

◇ 業務内容

- ・リサイクル団地の連絡調整・見学対応等業務
- ・リサイクル資料館・ふれあいホールの維持管理業務
- ・井水供給設備の維持管理業務
- ・リサイクル団地内市道の点検、清掃、除排雪業務
- ・リサイクル団地協議会の開催
- ・その他管理業務

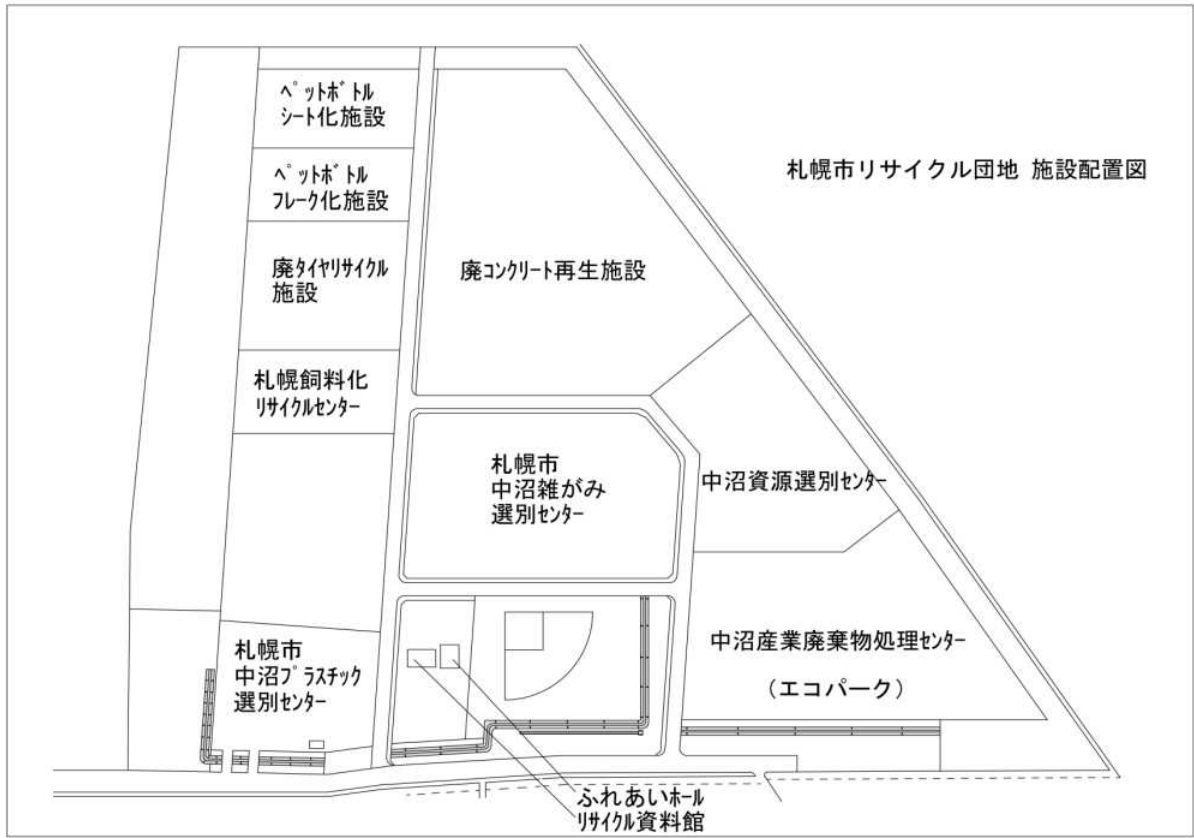
◇ 見学実績

平成26年度のリサイクル団地の見学実績は、件数128件、見学者数3,508人であった。

【表3-1 平成26年度 リサイクル団地見学実績】

	件数	見学者数
4月	3件	140人
5月	8件	250人
6月	6件	313人
7月	24件	838人
8月	13件	339人
9月	19件	510人
10月	20件	376人
11月	19件	641人
12月	4件	49人
1月	4件	15人
2月	2件	18人
3月	6件	19人
合計	128件	3,508人

【図 3-7 札幌市リサイクル団地 施設配置図】



(4) 大型ごみ収集センター管理運営事業 (決算額 19,002,872 千円)

札幌市の大型ごみは、平成9年10月からそれまでのステーション方式から電話申込による戸別収集となり、平成10年1月からは有料制が導入された。

当社は、平成11年4月から大型ごみ収集センターの管理運営業務を札幌市より受託し実施している。

◇ 業務内容

大型ごみ、リサイクル品の収集受付及び収集作業を円滑実施するための総括調整

- ・札幌市及び電話受付業務受託者との連絡調整
- ・収集車両台数の調整、未収集物に係る連絡調整
- ・電話受付業務受託者が回答困難な苦情・問い合わせ等への対応

◇ 平成26年度実績

- ・収集量 11,159 t (計測量: 12,400 t)
- ・受付件数 464,378 件 (計測量: 510,000 件)
- ・収集件数 312,920 件 (計測量: 344,000 件)
- ・収集個数 793,108 個 (計測量: 866,000 個)

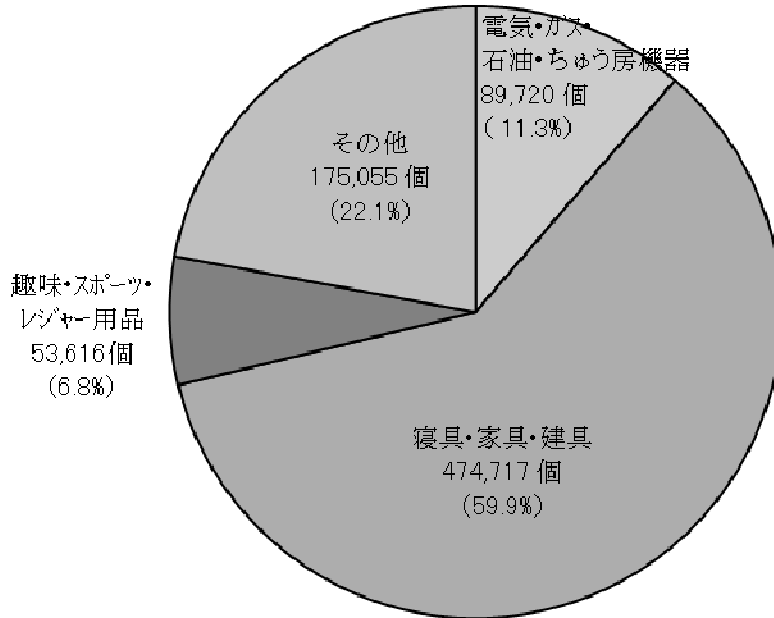
【表3-2 平成26年度 業務実績】

	収集量(t)	受付件数	収集件数	収集個数
4月	1,290	52,344	36,251	92,733
5月	1,098	42,314	30,672	80,774
6月	876	40,106	25,045	63,476
7月	1,067	42,562	30,241	76,601
8月	951	39,824	26,583	67,826
9月	962	43,714	26,774	69,128
10月	1,202	43,306	33,604	87,055
11月	939	39,489	26,223	66,883
12月	891	33,568	25,526	60,142
1月	464	20,523	13,904	30,825
2月	504	22,077	14,194	33,814
3月	915	44,551	23,903	63,851
合計	11,159	464,378	312,920	793,108

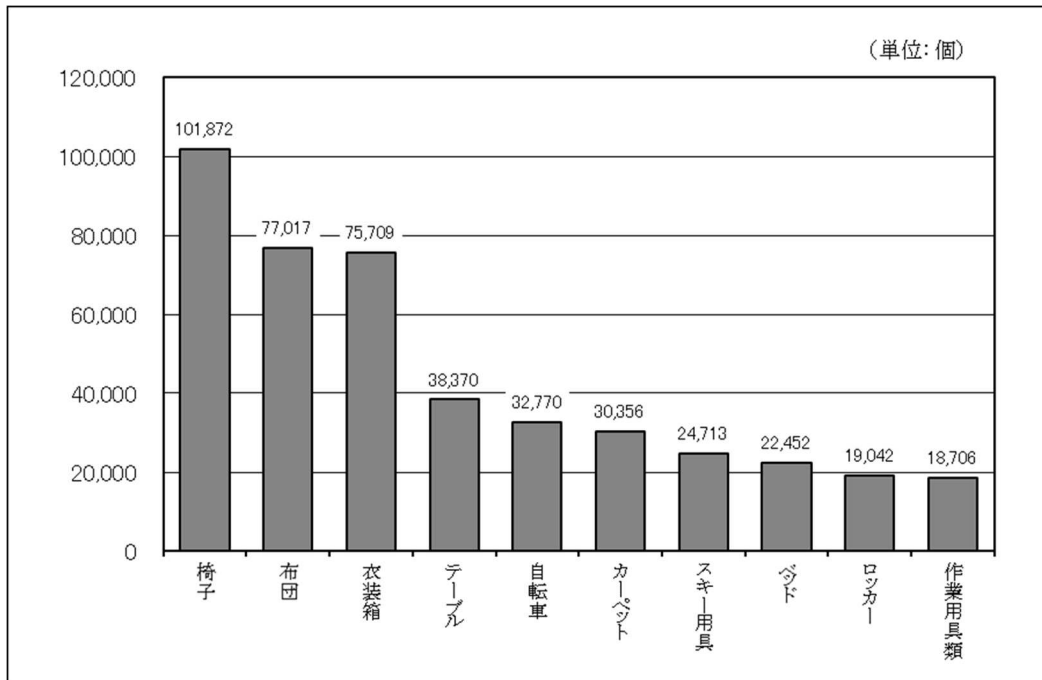
【表3-3 主な収集品目(上位10品目)】

順位	品目	個数	割合
1	椅子	101,872	12.8%
2	布団	77,017	9.7%
3	衣装箱	75,709	9.5%
4	テーブル	38,370	4.8%
5	自転車	32,770	4.1%
6	カーペット	30,356	3.8%
7	スキー用具	24,713	3.1%
8	ベッド	22,452	2.8%
9	ロッカー	19,042	2.4%
10	作業用具類	18,706	2.4%

《グラフ 3-13 収集品目大分類内訳》



《グラフ 3-14 主な収集品目（上位 10 品目）》



#### 4 事業系ごみ収集運搬事業 (決算額 6,062,996,261 円)

平成 26 年度の事業系ごみ収集運搬事業における、収入の基礎となる体積によるごみ収集量は、前年度比で、予算では 1.3%減を見込んでいたが、実績では 1.0%の減少に留まった。ごみ種のうち、生ごみ(△5.6%)、資源化ごみ(△5.2%)などが大きく減少となった。

一方、札幌市へ支払う処分手数料等の基礎となる重量によるごみ収集量は、前年度比で、予算では 0.6%増を見込んでいたが、実績では 0.9%の減少となった。

次に、重点事業である「事業系ごみ収集運搬の効率化」に関しては、平成 23 年度以降地下対策車や資源化ごみ、びん・缶収集の集約などに取り組んでいるが、平成 26 年度は、定期収集に行ってもごみが出ていない、いわゆる「空振り」の解消を進めるため、全市を対象に約 3,200 事業所を抽出し電話がけを行い、そのうち約 1,400 件が電話申込みや収集回数減の変更により、収集車約 2 台分に相当する収集件数が削減された。

平成 26 年度末現在の伝票収集による契約件数は 9,986 件、プリペイド袋収集による契約件数は 21,831 件の合計 31,817 件となり、前年度から 56 件増加した。

##### (1) ごみ収集量について【総収集量】

体積では、1,040,088 m<sup>3</sup>と前年度実績 1,050,962 m<sup>3</sup>に比較し 1.0%の減少、重量では、169,901t と前年度実績 171,508t に比較し 0.9%の減少となった。このうち、「廃棄ごみ」の収集量(可燃用プリペイド袋等を含む一般ごみ)は、体積で総収集量の 79.1%、また、「リサイクルごみ」の収集量は、総収集量の 20.9%となった。

##### ① 廃棄ごみ収集量(可燃用プリペイド袋等を含む一般ごみ)

収集量は、822,372 m<sup>3</sup>と前年度の 822,018 m<sup>3</sup>に比較し、ほぼ同じ量となった。

##### ② リサイクルごみ収集量

###### i) 資源化ごみ(木くず、紙くず、廃プラスチック類)

固形燃料(RDF)の原料としてごみ資源化工場へ搬入した。

収集量は、122,732 m<sup>3</sup>と前年度の 129,485 m<sup>3</sup>に比較し 5.2%の減少となった。

###### ii) 生ごみ

飼料や堆肥の原料として、札幌飼料化リサイクルセンター、南区定山溪及び石狩市の生ごみリサイクル施設へ搬入した。

収集量は 50,298 m<sup>3</sup>と前年度の 53,271 m<sup>3</sup>に比較し 5.6%の減少となった。

なお、札幌市教育委員会では、食育教育の一環として、学校給食での残食を一部堆肥化し、その堆肥を利用し契約農家が作付けをしたレタス、とうもろこしや玉ねぎなどを給食メニューに採り入れる「さっぽろ学校給食フードリサイクル」事業を展開しており、市内の 298 小中学校が参加し、各リサイクル施設への搬入に協力している。



iii) 不燃用プリペイド袋(資源物・燃やせないごみ専用袋)

燃やせないごみ専用袋に混入している、びん・缶、金属などの再生可能な資源物をリサイクルするため、篠路資源化センターへ搬入した。

収集量は 26,559 m<sup>3</sup>と前年度 26,817 m<sup>3</sup>に比較し 1.0%の減少となった。

iv) 剪定枝

樹木の剪定枝、幹、根など堆肥、畜舎の敷きわら及び燃料チップにリサイクルするため、篠路資源化センター内にある処理施設へ搬入した。

収集量は 1,191 m<sup>3</sup>と前年度 1,784 m<sup>3</sup>に比較し 33.2%の減少となった。

v) びん・缶・ペットボトル

中沼資源選別センター及び駒岡資源選別センターへ搬入した。

収集量は 16,936 m<sup>3</sup>と前年度 17,587 m<sup>3</sup>に比較し 3.7%の減少となった。

③ 家庭用パソコンのリサイクル

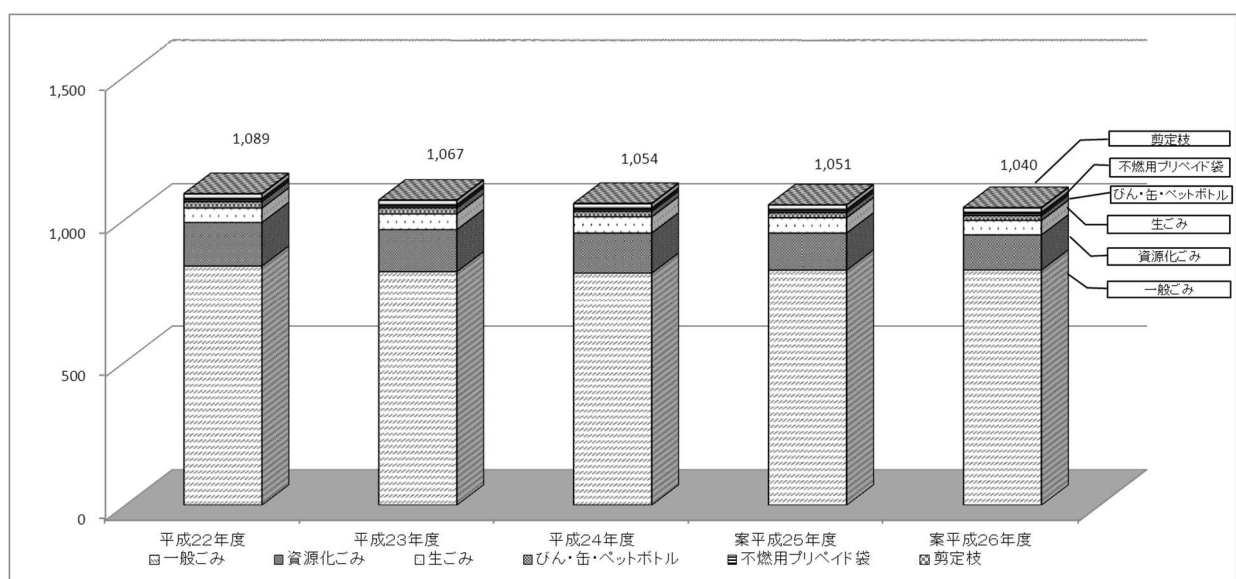
パソコン本体等 71 台、ブラウン管ディスプレイ等 45 台の合計 116 台と前年度 195 台に比較し 79 台、40.5%の減少となった。

【表 4-1 平成 26 年度 収集量(体積)】

(単位:m<sup>3</sup>)

項目 月	総量 (体積)	内 訳					
		廃棄ごみ	リサイクルごみ				
		一般ごみ	資源化ごみ	生ごみ	不燃用 プリペイド袋	剪定枝	びん・缶 ペットボトル
4 月	87,544	68,188	11,572	4,007	2,432	20	1,325
5 月	87,294	68,903	10,105	4,541	2,214	153	1,378
6 月	85,822	67,767	9,897	4,340	2,199	179	1,440
7 月	91,343	71,749	10,619	4,598	2,550	160	1,667
8 月	86,520	69,543	8,798	4,377	2,192	77	1,533
9 月	88,030	69,621	10,025	4,328	2,278	181	1,597
10 月	91,253	71,936	10,867	4,492	2,303	223	1,432
11 月	83,070	66,231	9,514	4,113	1,908	73	1,231
12 月	93,768	73,968	11,394	4,432	2,407	104	1,463
1 月	79,143	63,517	8,959	3,545	1,923	10	1,189
2 月	77,434	61,416	9,270	3,606	1,890	0	1,252
3 月	88,867	69,533	11,712	3,919	2,263	11	1,429
合計	1,040,088	822,372	122,732	50,298	26,559	1,191	16,936
25 年度	1,050,962	822,018	129,485	53,271	26,817	1,784	17,587
前年比	-1.0%	0%	-5.2%	-5.6%	-1.0%	-33.2%	-3.7%

《グラフ 4-1 収集量(体積)の推移》

(単位:千m<sup>3</sup>)

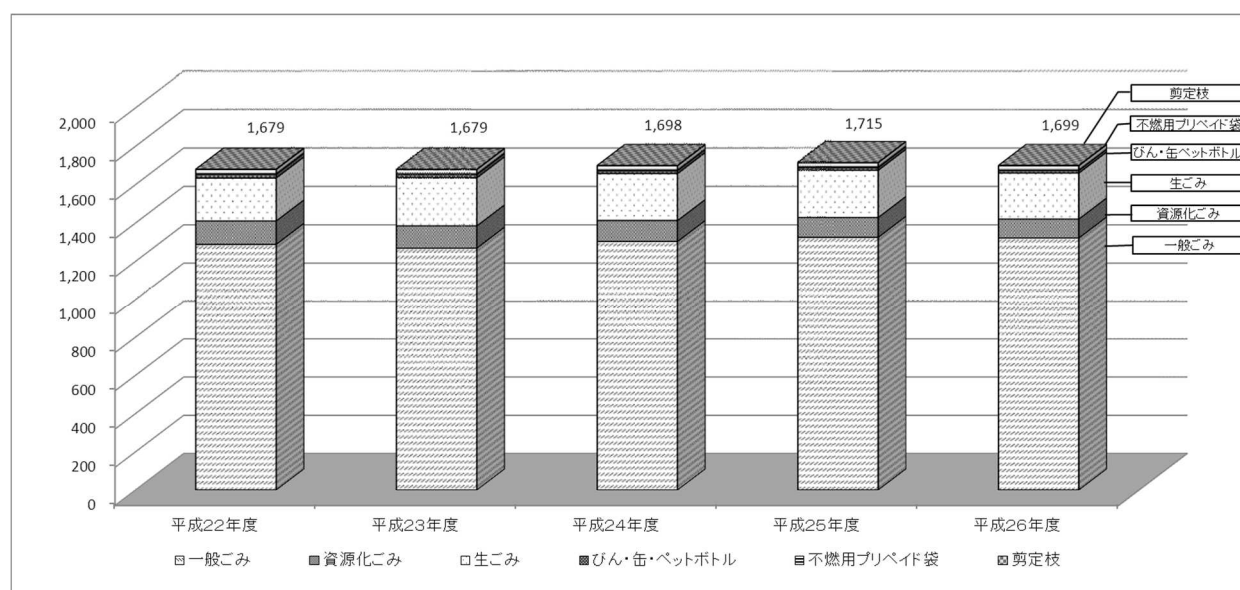
【表 4-2 平成 26 年度 収集量(重量)】

(単位:t)

項目 月	総量 (重量)	内 訳					
		廃棄ごみ		リサイクルごみ			
		一般ごみ	資源化ごみ	生ごみ	不燃用 プリペイド袋	剪定枝	びん・缶 ペットボトル
4月	13,886	10,636	995	1,910	226	2	117
5月	14,194	10,876	788	2,203	196	14	117
6月	14,196	10,919	791	2,160	187	17	122
7月	14,919	11,844	825	1,892	211	9	138
8月	14,726	11,537	737	2,135	181	10	126
9月	14,372	11,161	771	2,107	192	6	135
10月	14,567	11,303	830	2,108	196	10	120
11月	13,541	10,620	739	1,901	166	6	109
12月	15,390	11,929	938	2,140	229	9	145
1月	13,133	10,378	744	1,714	178	1	118
2月	12,533	9,756	738	1,754	168	0	117
3月	14,444	11,184	1,002	1,923	205	2	128
合計	169,901	132,143	9,898	23,947	2,335	86	1,492
25年度	171,508	132,512	10,349	24,575	2,441	131	1,500
前年比	-0.9%	-0.3%	-4.4%	-2.6%	-4.3%	-34.4%	-0.5%

《グラフ 4-2 収集量(重量)の推移》

(単位:百t)



## 【プリペイド袋の販売】

少量排出事業所向けに、プリペイド方式のごみ袋を店舗等で販売している。

平成 26 年度の販売数は、342,345 セットと、前年度実績の 348,197 セットに比較して約 5,900 セット、1.7%減少した。

【表 4-3 平成 26 年度 プリペイド袋販売実績】 (単位：セット)

販 売 店	販売数(セット)	備 考
市 民 生 協	25,200	26 店舗
セイコーマート	187,300	306 店舗
すずらん物産	64,227	-
市庁舎売店等	4,768	12 店舗
商店街組合等	5,600	6 団体
宅 配	51,040	宅配業者
そ の 他	4,210	公社営業職員持参
合 計	342,345	

【表4-4 年度別 種類別プリペイド袋販売実績】 (単位：セット)

項 目 年 度	20リットル	40リットル		総販売数
	可 燃	可 燃	不 燃	
平成26年度	11,930	267,523	62,892	342,345
平成25年度	11,664	267,609	68,924	348,197
平成24年度	13,313	320,651	83,699	417,663
平成23年度	10,721	276,166	68,170	355,057
平成22年度	9,477	265,960	65,068	340,505
平成21年度	7,809	215,779	56,929	280,517

## (2) 業務管理システムの開発

事業系ごみ収集運搬事業に係る「事業者管理システム」の老朽化に伴う不具合が続いたことから、平成 26 年度から新システムの要件定義書の作成、設計業務、工程管理業務を進め、年度末には設計業務まで終了した。平成 27 年度は製造工程に入り、新システムの移行テストを行いながら、平成 28 年度の運用開始に向けた取組を行う。

平成26年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。